

平成27年度 事務事業マネジメントシート

事業名	幼児ことばの相談室運営事業			会計	款	項目	大事	小事
				01	03	01	02	01 05
政策	01	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	児童発達支援センター				
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり	主管課長	長谷川 聖二				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	就学前の児童で、ことばの発達に遅れや障害のある児童	意図	ことばの遅れや障害に対して軽減または解消すること。
事業内容	幼児期の発語の遅れや発音、吃音の状態に対して、言語聴覚士が専門的立場から症状の解消や軽減を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	駒木台福祉会館内で実施していた支援を平成8年より流山市地域福祉センター（ケアセンター）4階において支援を実施している。当事業は、平成16年度からつばさ学園療育相談事業と連動して運営を行っていたが、平成27年4月より、児童発達支援センターに統合され児童発達支援センターの事業となる。ことばの支援を希望する児童は低年齢化の傾向が見られる。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		①	支援延べ日数	216	214	215	
②	支援延べ件数	1,450	1,255	1,353	件	→→	
③	支援修了人数	32	24	36	人	→→	
④	卒室人数	5	7	5	人	↑↑↑	
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） ・26年度、年中児の利用者が多かったため、今年度年長児となり、就学が理由で、支援修了児童が増加となった。 ・言語聴覚士1名が5月に体調不良の為退職されたので、療育相談室言語聴覚士の応援を得、26年度実績の支援が確保できた。 ・吃音児童が増えて来ており、新規ケースも増加している。
事務事業のコスト		平成25年度	平成26年度	平成27年度			
事務事業の総コスト(a=b+c)		10,304,380	10,022,276	8,337,959			
事業費(b)(円)		9,955,030	9,676,776	7,961,459			
うち一般財源		9,955,030	9,676,776	7,961,459			
職員給与費(c)(円)		349,350	345,500	376,500			
人役・職員(人)		0.05	0.05	0.05			
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H27)の改善計画	言語聴覚士退職(5月体調不良のため)に伴う人員の確保を行う。児童発達支援センターへの統合に伴い、保護者への対応や事務事業の役割を明確化して行く。	③取組の課題	言語聴覚士の確保及び安定した支援時間の確保を行う。 年長児の就学相談の増加への対応。
②今年度(H27)に実施した取組	ほぼ1年間募集したが応募がなく療育相談室言語聴覚士の協力にて事業を行う。児童発達支援センターへの統合に伴い、事務作業の分担をし支援を中心に行うように努めた。	④今後の改善計画	28年度中に現センターから支援場所を移転する事に伴い、保護者への情報提供及びスムーズな移転の準備を行う。